

学会ニュースNo.103 トピックス

- ・秋季例会および講演会・臨地研究会会告(第2報) ・評議委員会 ・総会報告
- ・第66回研究発表大会報告 ・研究委員会の設置と委員募集のご案内 ・第41回講演会のご案内
- ・地理学教室だより-セミナーおよびフィールドワーク報告(片柳 勉クラス)
- ・2011年度「彩の国環境地図作品展」のご案内 ・会費納入のお願い

立正地理学会ホームページアドレスを下記に変更いたしました。
お手数ですが、登録変更をお願いいたします。

<http://risweb2.ris.ac.jp/geosoc/index.html>

これからも変わらぬご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

会 告

○2011 年度第 35 回秋季例会・第 40 回講演会・第 108 回臨地研究会のご案内(第2報)

第 35 回立正地理学会秋季例会、第 40 回講演会ならびに第 108 回臨地研究会を、以下の日程で開催します。多くの会員の皆さまの参加をお待ちしております。

第 35 回秋季例会(福島)・第 40 回講演会のご案内

1. 日時:2011 年 10 月 29 日(土)13 時 20 分～16 時 30 分
2. 会場:二本松商工会議所 会議室
〒964-8577 福島県二本松市本町 1 丁目 60-1

≪第 40 回講演会≫13 時 20 分～14 時 20 分

山川充夫(福島大):震災復興計画づくりと経済地理学

≪第 35 回秋季例会≫14 時 30 分～16 時 30 分

口頭発表

岩動志乃夫(東北学院大):東日本大震災が小売業に及ぼした被害とその特徴—仙台市を例に—

渡辺 拓(ふくしまヒマワリ育成計画):福島放射能汚染 第二報

阿子島 功(福島大):2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震による福島県の地盤災害

高田明典(立正大):福島県中通り地方の農地被害と農家対応

高木 亨(地域開発研究所)*・田村健太郎(立正大・学)・熊谷地理研究会:いわき市高部地区における学生による集落活性化活動と東日本大震災の影響

初沢敏生(福島大):文化資産を活用した地域づくりと震災への対応—福島市 S 家の事例—

《懇親会・宿泊》

会場:岳温泉あづま館

〒964-0074 福島県二本松市岳温泉 1-5

会費・宿泊費:懇親会+宿泊(朝食付) 13,000 円、懇親会のみ 7,000 円

懇親会は 29 日(土)18 時~20 時の予定です。参加、宿泊を希望される方は、必ず集会委員会までお申し込みください(詳細は本ページ最後にあります)。

《講演会・秋季例会会場》

以下の地図をご参照ください。



二本松駅より徒歩約 5 分。(二本松駅には改札口は 1ヶ所しかありません。)

第 108 回臨地研究会のご案内

1. 日時:2011 年 10 月 30 日(日)9 時~15 時 30 分
2. 集合場所:岳温泉あづま館
3. テーマ:東日本大震災への対応と復興
4. 案内者:初沢敏生(福島大)・阿子島功(福島大)
5. 参加費:4,000 円(貸切バス代、昼食代を含む)
6. コース:岳温泉あづま館(岳温泉の震災後の対応について)→奥の松酒造株式会社(二本松の酒造りと震災後の対応について)→ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会(里山づくりの活動と震災後の対応)→福島市あさひ台団地の地盤災害現場の視察(前日の研究発表の事例現場を視察)→JR 福島駅解散
7. 募集定員:30 名

※懇親会・宿泊・臨地研究会の申込み

参加を希望する会員は、ハガキもしくは電子メールに氏名・所属・電話番号または電子メールアドレスを明記し、立正地理学会集会委員会宛にご連絡下さい。

締切は 10 月 19 日(水)必着とします。送り先、メールアドレスは次の通りです。

2011年9月

住所: 〒360-0194 熊谷市万吉 1700 立正大学地理学教室内
立正地理学会集会委員会

メールアドレス: geosoc@ris.ac.jp

なお、現地世話人は初沢敏生会員(福島大)、メールアドレスは次の通りです。

初沢会員のメールアドレス: hatsuzaw@educ.fukushima-u.ac.jp

○2011年立正地理学会評議委員会報告

2011年6月3日(金)18:00より立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ6階会議室において、出席者15名、委任状提出者11名、計26名にて開催された。議事では、まず2010年度事業報告が島津常任委員長よりなされた。次に2010年度決算報告が山田庶務会計委員長よりなされ、いずれの事項も承認された。引き続き、2011年度事業計画案・予算案が提出され、いずれの事項も承認された。
(集会委員会)

○2011年度(第66回)立正地理学会総会報告

2011年6月4日(土)11:30より立正大学熊谷校舎アカデミックキューブA201教室において、出席者44名、委任状提出者412名、計456名にて開催された。正議長に谷口智雅会員、副議長に元木理寿会員を選出し、議事に入った。議事では、まず2010年度事業報告・決算報告・会計監査報告がそれぞれ島津常任委員長、山田庶務会計委員長、松井会計監査からなされた。審議後、いずれの事項も承認された。引き続き、2011年度事業計画案・予算案、立正地理学会役員・各種委員会委員案が提出され、会員からの質疑を含めた審議を経て、いずれの事項も承認された。
(集会委員会)

○2011年度(第66回)立正地理学会研究発表大会報告

1. 2011年度 研究発表大会の概要

日時: 2011年6月4日(土) 総会・研究発表 9:40~17:20 懇親会 17:30~19:00

会場: 立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ3階

大会参加人数: およそ100名



写真1 ポスター発表(小林千夏会員撮影)



写真2 口頭発表(須田恵里香会員撮影)

2. 2011年度発表大会取材レポート

会長講演および大会発表に関する広報委員の取材レポートです(学生広報委員:地理学科3年小林千夏、田部井敬太、仲間詩織、社会人広報委員:須田恵里香)。

<会長講演>

堂前亮平会長(久留米大):南島(奄美・沖縄)の社会空間

堂前会長による講演では、南島(奄美・沖縄)の地域性と社会空間の変容についてお話し頂きました。地域性に関して、第2次世界大戦前後での変化という視点から、奄美大島名瀬市や石垣島の事例、川崎市における沖縄県出身者の社会空間についての事例を示しつつ、地域性についてご説明頂きました。また、社会空間の変容については、沖縄の芸能空間についてイベントなどに重点を置きながら新しい社会



空間の創造について述べられ、南島の社会空間について詳しくご講演いただきました。詳細な調査結果をもとにされた研究に、深い興味を覚えました。(小林千夏)

<口頭発表>

河野 忠(立正大)・西野可奈子(川崎地質)・鈴木康久(京都カップ研究会):「都名水視競相撲」(1802年)にみる京都の名水と洛中洛外図屏風との関係

私は本年度のフィールドワークで水質調査をおこなったので、河野先生の発表に興味を持ちました。本発表では「都名水視競相撲」の水環境を復元することを目的とし、京都にある200か所の河川・井戸・湖沼について当時の人が水をどのように認識し、位置づけていたのかを調査したものです。その上で「都名水視競相撲」の東西を分けるラインが洛中洛外図屏風と一致しているという新しい知見が明らかにされています。そこで河野先生から学生へのメッセージとして「事例研究も大切だけど、他人に意味がないと思われても新しいことに挑戦してほしい」とのコメントをいただきました。(仲間詩織)

<ポスター発表>

助重雄久(富山国際大)・佐竹里菜(富山国際大・学):わかりやすい観光案内地図の条件-地図の統一化を図る金沢市と他地域との比較-

本発表では観光案内地図を「わかりにくい地図」と「わかりやすい地図」とに分類し、考察されていました。わかりにくさの原因は①作り手が異なる複数の地図②作り手は同じだが方向が異なる複数の地図③方向が異なる地図が含まれた案内板④スケールが観光客の行動範囲とマッチしていない地図に分類されていました。一方、わかりやすい地図を作成するためにさまざまな取り組みをおこなっている金沢市では、地図を立ち位置から見た正面を上にするなどのデザインや案内サインの統一を図っていることが発表されていました。みなさんもぜひこのような視点から観光案内図に目を向けてはいかがでしょうか。

(須田恵里香)

<地理写真>

今回の大会では、3月11日に発生した東日本大震災に関連する地理写真の展示が3件ありました。宮城県大船渡市で調査されていた山田淳一先生が撮影した、地震発生6分前の津波被害にあう直前の写真や、高田明典先生による地震被害を受けた福島県中通り地方の写真なども展示されていました。このような貴重な写真をみることができ、教員を目指している私にとってはとても有意義な大会でした。（田部井敬太）

3. 学生インタビュー

2011年度発表大会に参加した地理学科の学生のみなさんから、大会に参加しての感想や学んだことについてインタビューしました。学生のみなさんはぜひ来年度の大会に参加しましょう。

地球環境科学部 地理学科 1年 金子健太君

今回の発表の中で熊谷市における商業構造の変化について興味を持ちました。私はGISに興味があり、この発表ではその商店街には行ったことはないけれど、GISでわかりやすく表現されているところに関心を持ちました。今後は、興味あるGISの基礎から応用まで学んでいきたいです。

地球環境科学部 地理学科 1年 竹本大悟君

初めて研究発表大会に参加して学んだことは、GISで作成した地図はどれも見やすく、内容をわかりやすく表現する手段の一つとしてとても効果的だということです。また、多くのポスター発表を見て、ポスターの構成についてもとても勉強になりました。最近、ニュージーランドでの地震や東日本大震災があったこともあり、今後は地震について学んでいきたいです。

地球環境科学部 地理学科 3年 鶴巢久美子さん

Christchurch Earthquakeの被害分布と地形について興味を持ちました。被害にあった地点は意外と狭く、一部の地域のみ液状化や倒壊がみられ、地震の前後で街の様子が大きく変わったことが印象的でした。またポスターについて、文章は要点を押さえ、写真を多用するとわかりやすくなるということが勉強になりました。

地球環境科学部 地理学科 4年 及川 拓君

アジアメガシティの土地利用変化と地形図収集について、土地利用調査の情報収集方法をはじめ、その変化やプロセスを探る点について興味を持ちました。学会での発表や聞き手を飽きさせない工夫や、研究目的をわかりやすく伝えるという点が勉強になりました。

先輩から学生のみなさんへ

2011年度発表大会に参加しておられ、さまざまな分野で活躍されている地理学科OBの方々に、学生のみなさんへのアドバイスなどを伺ってみました。

須藤進太郎先生(栃木県立小山城南高等学校) 1994年度卒業

教員を目指している地理学科の学生は、多くの論文や文献を読むことが必要です。自分の研究分野を深化させることは、子どもたちへの興味・関心を高める授業が展開できること

につながります。また、教員になると長期の休みがとりにくくなります。したがって、学生のうちに巡検や旅行を通し、さまざまな場所に行き、その地域を知ることが大切です。

教科指導に関しては、地理以外の科目を担当することもあるので、世界史や日本史なども学び、幅広い知識を身につけるよう心がけてください。他の科目を学ぶことで、新しい発見があり、地理を指導する上でも大いに役立つことでしょう。

また教員は、教科指導だけではなく、部活動指導・生徒指導などもおこないます。したがって体力的・精神的にも強くなければなりません。そしてなによりも、子どもが好きで、子どもたちと成長していく気持ちを持ち続けることが大切です。それでは、頑張ってください。

岩谷宣行先生(秋田県立能代高等学校) 2001 年度卒業

地理歴史の教員免許は多くの学部で取得できるため、学校現場では地理学科出身というのは少数です。ゆえに自然地理・人文地理問わずプロフェッショナルとして見られます。また、高校では世界史が必修ですから、地理学科出身であっても他科目を受け持つこととなります。世界史や日本史の勉強もしておいてください。そして、卒業してからでも「公民」の免許を取得してください。あなたの人材としての幅を広げることになります。

大学生活は、生徒が経験していない未知の領域です。未来に広がる「楽しさ」を伝えるためには、あなた自身が充実した生活を送っていることが必須です。教員に求められるのは授業をおこなう能力だけではありません。学生のうちにいろいろな経験をしておいてください。それが、生徒と接するとき大切な共感力にもなり柔軟さにもつながっていきます。

瀬田博之さん(日進技研株式会社) 2002 年度卒業

大学時代は、岡村先生のゼミで「埼玉県幸手宿の歴史的景観的形成」について研究しました。現在は大学時代に取得した測量士補の資格を活かし、測量士として港の整備など海の測量をおこなう仕事をしています。

大学時代は巡検などで仲間とともにたくさんの地域に足を運び、直接、見て聞いて触れてきました。学生時代にいろいろなものを経験し、直接見て聞いて触れて何か得るものを感じ、卒業しても取り組めるもの・活かせるものを見つけてください。

○研究委員会の設置と委員募集のご案内

新規に研究委員会設立を募集したところ、下記の応募がありました。委員会の設置をお知らせするとともに、多くの会員の参加をお待ちしております。

「放射性物質局地的汚染」研究委員会（新規）

1. 世話人：戸田真夏会員(代表)
2. 趣旨：本研究委員会は、関東・東北の東日本地域を中心に可能な限り多くの場所で地表付近の放射線量を計測し、そのデータを速やかに公表することを第一の目的とする。局地的に放射線量の高い「ホットスポット」の形成プロセスは、放射性物質が降雨によって地上に降り注ぎ、地表流によって集積し、浸透や蒸発によって濃縮するといった「自然地理学的」なプロセスによる、と考えられる。このようなプロセスに関する知識を持ち合わせている(自然)地理学者が、より細やかなセンスで「ホットスポット」が形成されていそうな場所の放射線量を計測し、公表することは重要な意義を持っている。データの公表により、必要な対策が速やかに進むこと、あるいは不要な不安を取り除くことに役立つと考えられる。また蓄積したデータから、どのような場所に放射性物質が集積するのか、よりミ

クロな観点から明らかにすることも目的としている。

3. 主な活動内容:

- ① 詳細な放射性物質汚染マップを作成・公表する。
- ② 放射性物質の局地的な集積に関するプロセスやそのパターンを明らかにする。
- ③ 各地の放射線量の時間的変遷に関する基礎データを得る。

4. 研究委員会設置期間 : 2011年4月～2013年3月

5. 参加申込 : 委員会名を記載し、氏名・所属・連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を明記して、立正地理学会まで葉書もしくはメール(geosoc@ris.ac.jp)にてお申し込み下さい。

6. 申込期限 : 原則として2011年11月30日

○第41回講演会のご案内

第41回立正地理学会講演会を日本国際地図学会との共催により、以下の内容で開催します。この講演会は立正大学熊谷図書館主催の特別展「古地図・絵図 田中啓爾コレクションの世界」(11月4日～10日)に関連し開催するものです。皆様の参加をお待ちしております。

1. 日時: 2011年11月5日(土)13時～15時

2. 場所: 立正大学熊谷キャンパスゲートプラザ1階 1101教室

3. 題目: 正井泰夫(立正大学名誉教授): 立正の地理と田中啓爾先生

鈴木純子(元国立国会図書館員): 田中啓爾文庫所蔵の絵図・地図

※講演終了後、講演者および立正大学図書館課員他による解説をいただき、特別展の見学会をおこなう予定です。

☆地理学教室だより☆

第4回目となりました今回は、北海道函館市でフィールドワークを行った片柳先生と、参加した3年生にその様子を伺いました。

○セミナーおよびフィールドワーク報告(片柳 勉クラス)

日時: 2011年6月20日～23日

場所: 北海道函館市

参加人数: 地理学科3年生12名

テーマ: 地域資源を活かしたまちづくり

フィールドワークの狙い: 人文地理学のさまざまな調査方法を用いて、地域資源を活かしたまちづくりを進める函館市の現状とその課題を明らかにする。

大切にしたいフィールドワーク

筆者は地理の授業の神髄はフィールドワークにあると考えている。それゆえ、実習地で最大の成果が得られるように、週1回(全15回)おこなうゼミをフィールドワークの事前・事後指導にあてている。ゼミでは、学生が発表する機会をできるだけ多く設けている。事前ゼミでの文献調査結果および調査計画の発表、事後ゼミでの最終報告等である。このほか現

地でおこなうミーティングで学生に調査の中間報告をさせている。これにより学生はそれぞれ半期で5回程度の発表をすることになる。また、発表時の司会を学生に任せていることや、1人の発表につき最低3名の質疑応答を義務付けていることなどから、授業中に学生が沈黙していることはほとんど不可能である。

今年度の事前ゼミでは、文献調査を通じて実習地である函館市全般について理解すること、調査テーマに関連する事項を整理し課題を発見すること、それらに基づいて調査計画を立案することの3点を目標に据えた。事後のゼミでは、実習地で収集したデータの整理と分析、レポートの書き方を中心に指導を行い、ゼミ最終回を学生による最終報告にあてた。

2・3年次のフィールドワークでは、全4日間のうち前半2日間を実習地での巡検とし、後半2日間を個々の学生による調査日とすることを基本としている。今回のフィールドワークでも同様の日程を設定した。初日に函館旧市街を中心に巡検形式で概観調査を行い、学生には各自の調査テーマを念頭に置いて観察をするように指示した。また、ここ数年は公的機関や NPO 法人等での聞き取りをおこなうようにしており、今回は2日目に函館市役所都市建設部都市デザイン課の方から歴史的建造物の保存と活用というテーマで説明を受け、併せて元町末広町重要伝統的建造物群保存地区を案内していただいた。

フィールドワークの後半は学生がそれぞれのテーマに従って調査を行った。調査テーマは、「ウォーターフロントにおける親水性と土地利用変化」「伝統的建造物群保存地区の現状」「中心市街地における空洞化の現状と対策」「温泉街における土地利用変化」「グリーンベルトの現状と住民意識」等である。なお、実習3日目の午前中に函館市西部の弁天町に本社を置く「函館どつく」で貨物船の進水式があると聞き、学生と一緒に見学することにした(写真)。結果的に学生の調査時間を減らすことにはなったが、港湾都市函館を理解するうえでまたとない機会となった。

今年度の3年ゼミ生は12名中8名が2年次の「地理調査法およびフィールドワーク(湯浅町・広川町)」のゼミで指導した学生であった。これら8名の学生が提出したレポートには2年次に比べて格段の進歩が見られたが、2年次に他のゼミに所属していた学生もおそらく同様の向上があったものと確信している。「セミナーおよびフィールドワーク」は教育効果が実感できる科目であるばかりでなく、教員と学生が対話を通じて互いの距離を縮められる数少ない科目の一つである。来年度から無くなってしまうのは何とも惜しい限りである。

(片柳 勉会員)



写真 「函館どつく」での進水式
(2011年6月, 片柳会員撮影)



図 函館市西部地区の土地利用
(2011年6月, 現地調査により小貫作成)

学ぶことの多いフィールドワーク

小貫鈴夏(地理学科3年)

今回のフィールドワークでは「伝統的建造物群保存地区の現状」をテーマに、函館市西部地区の元町・末広町において町並みの調査を行った。現地では、同地区に設定されている伝統的建造物群保存地区と都市景観形成地域を比較することで、町並みの違いを実感することができた。土地利用図の作成では、昨年度のフィールドワークでの反省を活かし、調査方法や利用区分の仕方に工夫をすることでより良い図を作成することができた(図)。また、調査以外では進水式を見学し、観光都市という面だけではなく港湾都市としての機能を持った函館市の側面を見ることもでき、学ぶことの多い充実したフィールドワークとなった。

函館市でのウォーターフロントの調査

中橋瑠輝(地理学科3年)

私は今回のフィールドワークで函館市のウォーターフロントにおける親水性について調査した。埼玉県出身の私にとっては今回のテーマはあまり馴染みのあるものではなかったが、「せっかく函館で調査ができるのだから」という思いからこのテーマで調査を行った。現地調査では、親水性のレベルを自ら設定してそれに沿った地図を作成し、それぞれの地点での親水性の違いを比較した。同じウォーターフロントでも場所によって親水性が異なり、現地調査でしかわからない開発の現状も知ることができた。今回のフィールドワークで事前調査、現地調査、結果のまとめ方など、調査における基礎から応用まで学ぶことができた。

○2011年度「彩の国環境地図作品展」のご案内

立正大学地球環境科学部では、2002年度より「彩の国環境地図作品展」を開催しております。「彩の国環境地図作品展」は、身の回りの環境や地域の姿の観察・調査をおこない、地図として表現することにより、環境や地域に対する見方・考え方、地図の持つ可能性に対して、理解を深めることを目的としております。埼玉県内の小学校、中学校、高等学校特殊教育諸学校に在籍する児童生徒を対象として、作品を募集しております。

作品の展示会、ならびに入賞作品の発表会・表彰式を下記の日程で開催いたします。ぜひ、お出かけ下さい。

《発表会・表彰式》

2011年12月3日(土) 立正大学熊谷校舎 アカデミックキューブ

《作品展示》

2011年11月 9日(水)～23日(水) 埼玉県環境科学国際センター
(JR鴻巣駅・加須駅よりバス)

2011年11月30日(水)～12月3日(土) 立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ

2011年12月 6日(火)～ 18日(日) 埼玉県立川の博物館
(東武東上線鉢形駅より徒歩20分)

入賞作品は、国土地理院「全国児童生徒地図優秀作品展」(2012年1月 7日～2月19日)に出展されます。また、入賞作品・優秀作品は「彩の国環境地図作品展ホームページ」でも閲覧できます。

「彩の国環境地図作品展」ホームページ (<http://www.ris.ac.jp/ecomap/>)

鈴木厚志・原美登里(立正大学)・亀井啓一郎(立正大学・非)

○会費納入のお願い

今回の学会ニュース 103 号には「会費納入状況のお知らせ」を同封しております。2011年度分会費が未納の方は、同封致しました払込取扱票にてご納入下さい。なお、過年度分会費が未納の方は、過年度分も併せてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定いただく口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名を会員ご本人の氏名として頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、払込取扱票の払込人住所氏名の欄が未記入の物が見受けられます。とくに、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない払込取扱票の対応に苦慮しております。何卒、ご入金の際には氏名欄のご確認をお願いいたします。
(庶務会計委員会)

編集後記

朝夕はめっきり涼しくなりましたが、まだまだ日中は暑い日が続いております。

6月に行われました立正地理学会におきまして、多くの会員の皆様に足をお運びいただき、また、私共のインタビューに快くお答え下さり、誠にありがとうございました。おかげをもちまして貴重なお話を拝聴することが出来ました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

さらなる紙面充実のため皆様からのご投稿もお待ちしております。

(広報委員会 須田恵里香)

立正地理学会ニュース No. 103

2011年 9月 22日発行 編集者 立正地理学会 広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1672 振替 00130-8-13453